

《履修上の留意事項》 本講義では、国際関係に関わる諸問題を通じて、学生自身の思考能力・表現能力を養成することを最大の目標としている。自身の能力を高めるとの観点から、授業では、適切な日本語（あるいは英語）文法表現・ロジックを持った考えの文章化、積極的な発言、発表、学生同士の意見交換を必要とする。特に、ある程度のコミュニケーション能力は、受講に必要なスキルとして要求される。授業では多くのグループワークを実施する。グループワークを「嫌忌」する学生は受講を避けて欲しい。あくまで選択授業であることを忘れないでほしい。また、オンライン授業として実施する場合にも、遠隔技術を用いたグループワークを実施するので留意されたい。

《担当者名》准教授 / 佐藤 圭史 / keiji_sato@

【概要】

本講義では、大学生の一般常識として必要な国際関係論・国際政治学・安全保障論・国際社会学の基礎理論を習得する。対象期間は、国際的な協調体制ができ、国際関係論の萌芽が見られる第一次世界大戦（より正確には、国際連盟組織）後から現代までの事象を扱う。これらの国際政治現象が、現代の私達の生活に如何なる影響を与えているかを認識する。授業では、知識を蓄えるだけでなく、自ら考えを表現し、他者に伝える技術も知的ゲームを通じて習得する。授業を通じ、歯学部学生が、歯科学に限定されない多様な知識を学生のうちに習得し、国際的な視点を養うことの重要性について理解する。

【学修目標】

- 国際関係論の基礎理論を正しく理解し、説明する。
- 国際政治学の基礎理論を正しく理解し、説明する。
- 国際経済学の基礎理論を正しく理解し、説明する。
- 国際金融論の基礎理論を正しく理解し、説明する。
- 安全保障論の基礎理論を正しく理解し、説明する。
- 国際社会学の基礎理論を正しく理解し、説明する。
- 地域研究論の基礎理論を正しく理解し、説明する。
- 現代政治の仕組みを正しく理解し、説明する。
- 海外事情を理解し、現在の日本の医療事情を客観的に把握する。
- 時事問題に関する自分の考えを適切な文法及びロジックを用いて文章化する。
- 時事問題に関する自分の考えを説得力ある表現で発言する。
- 時事問題に関する自分の考えを他者に理解させる。
- 時事問題に関する他者の考えを正確に理解し、時には反論する。
- 知的ゲームを通じ、他者とのチームワークを発揮する。
- 知的ゲームを通じ、リーダーシップを発揮する。
- 知的ゲームを通じ、困難に直面した差異の解決方法を発案・実践する。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---|----------|---|-------|
| 1 | 国際関係論・序論 | ガイダンス ・国際関係論の要点を理解する。 ・国際政治学の要点を理解する。 ・地域研究論の要点を理解する。 | 佐藤 圭史 |
| 2 | 国際社会学（1） | アメリカの医療事情と諸問題 ・北米圏の社会情勢を概説する。 ・北米圏の医療が抱える問題を概説する。 ・医療保険制度の各国間の差異を指摘する。 ・「裕福な国」に見られる貧困を理解する。 ・当該問題の核を正確に指摘する。 ・当該問題に対する積極的な対策法を発案・表現する。 | 佐藤 圭史 |
| 3 | 国際社会学（2） | アジアの医療事情と諸問題 ・アジア圏の多様性及び社会情勢を概説する。 ・アジア圏の医療が抱える問題を概説する。 ・マズローの自己実現論を批判的に考察する。 ・マズローの自己実現論の改案を発案・表現する。 ・「貧困国」の貧困を正確に理解する。 ・当該問題の核を正確に指摘する。 | 佐藤 圭史 |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|----|----------|--|-------|
| | | ・当該問題に対する積極的な対策法を発案・表現する。 | |
| 4 | 国際社会学（3） | ヨーロッパの医療事情と諸問題 ・欧州圏の多様性及び社会情勢を概説する。 ・欧州圏の医療が抱える問題を概説する。 ・医療人としてのモラルについて意見を明確にする。 ・欧州内の貧困の多様性を正確に理解する。 ・当該問題の核を正確に指摘する。 ・当該問題に対する積極的な対策法を発案・表現できる。 | 佐藤 圭史 |
| 5 | 国際政治学（1） | マスメディアと国家による情報操作（プロパガンダ） ・情報操作とは何かを説明する。 ・マスメディアの社会に及ぼす影響について説明する。 ・国家による情報操作のロジックを理解する。 ・他者による情報操作の危険性について理解する。 ・情報操作が行われる背景を正確に指摘する。 ・情報操作に対する自己防衛策を発案・表現する。 | 佐藤 圭史 |
| 6 | 外交論（1） | 他国での情報収集（スパイ活動を含む） ・情報収集とは何かを説明する。 ・他国における情報収集の重要性を理解する。 ・情報収集のメリットとデメリットを理解する。 | 佐藤 圭史 |
| 7 | 外交論（2） | 外交ゲーム ・ハト派的外交とタカ派的外交の差異を概説する。 ・外交理論を概説する。 ・自身にとって最適な外交方策を検討する。 ・他者の思考・方策を洞察し、適切な対処策を検討する。 ・ゲームの過程と結果を総括する。 | 佐藤 圭史 |
| 8 | 国際政治学（2） | ゲーム理論 ・ゲーム理論を正しく理解し、説明する。 ・協力ゲームと非協力ゲームとの差異を説明する。 ・国際社会で生じているゲーム理論の典型例を提示する。 ・独自のゲーム理論を発案・表現する。 | 佐藤 圭史 |
| 9 | 安全保障論（1） | 国防理論 ・国防について理解を深める。 ・効果的な国防について考えを共有する。 | 佐藤 圭史 |
| 10 | 安全保障論（2） | ミサイル基地設置ゲーム - グループワーク ・安全保障論を概説する。 ・防衛学を概説する。 ・チームワークを形成する。 ・リーダーシップを発揮する。 ・他者と適切な意見交換する。 ・流動化する環境の中で、最適な方法を提案する。 | 佐藤 圭史 |
| 11 | 国際機構論 | 国際機構・国際組織・NGO ・国際機構の特性を概説する。 ・国際機構の仕組みについて説明する。 ・国際機構の活動で不具合が生じる原因について説明する。 ・国際機構の抱える問題を指摘する。 ・国際機構の現行制度を改善する案を提示する。 | 佐藤 圭史 |
| 12 | 認知科学（1） | 認知科学 - 理論 ・認知科学を概説する。 ・認知構造図を理解する。 ・認知構造図を作成する。 ・AIによる国際関係分析の可能性を理解する。 ・AI対人間ではなく、AIを活かす人間側の技能向上を | 佐藤 圭史 |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|----|-------------|--|-------|
| | | 目指す。 | |
| 13 | 認知科学（2） | 認知科学 - グループワーク ・認知科学を概説する。 ・チームワークを形成する。 ・他者に適切な形で意見を伝える。 ・非言語コミュニケーションの存在と重要性を理解する。 ・非言語コミュニケーションの限界を認識する。 ・ゲームの過程と結果を総括する。 | 佐藤 圭史 |
| 14 | 国際経済学・国際金融論 | 国際的視点を持つ経済と金融 ・経済分析の手法を概説する。 ・金融動向を分析する。 ・日本経済と世界経済の強い関係性を説明する。 ・他者と適切な意見交換する。 ・流動化する環境の中で、最適な方法を提案する。 ・ゲームの過程と結果を総括する。 ・全講義を通じ国際情勢に対する考えを総括する。 | 佐藤 圭史 |
| 15 | 国際政治学（3） | 国家論 ・国家論を概説する。 ・国家の3構成要素に適切な反論がする。 ・国家の成り立ちについて説明する。 ・現代国家が様々な問題の弊害をもたらしたことを説明する。 ・現代国家の抱える問題を指摘した上で、現状の改善策を提示する。 | 佐藤 圭史 |

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

最終レポート（30%）

中間レポート（15%）[11月後半あるいは12月初旬に実施]

講義中に課す課題（計15回）（30%）

講義中の発表内容とグループワーク内での活動度合（25%）

【教科書】

テキストは、必要な場合、講義ごとにコピーして配付する。

【参考書】

参考文献は、必要な場合、講義ごとにコピーして配付する。

【備考】

本講義は、日本語で実施されるが、受講生にとって日本語よりも英語の方が容易であるならば、英語での表現（英語による発言及び英文での課題提出）は可能である。また、講義内容によってはゲストサポーター、ゲストスピーカーを招き、英語で部分的に行うこともあ。英語の知識があることが望ましが、絶対的に必要なものではなく、海外・英語・政治に関心がある、将来的に英語を習得したい学生も広く受け入れている。また、グループワークを行う関係から、最低限のコミュニケーション能力をもって臨んで欲しい。

【学修の準備】

シラバスを見て、翌週のテーマ・学問について事前にインターネット、書籍などで調べる（15分）。

講義後、関心を持った事象に対し自分の考えをまとめる（10分）。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を国際関係論の観点から身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる基礎能力を国際関係論の観点から身につける（自己研鑽力）。

DP5.歯科医療の専門家として、地域のおよび国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために必要な知識を国際関係論の観点から修得する（社会的貢献）。

【実務経験】

外務省専門調査員（ロシア、サハリン）、ロシア・東ヨーロッパの紛争研究（25年）

【実務経験を活かした教育内容】

外務省専門調査員として国際問題に直接関わってきた経験から、今の日本人にどのような視点が不足しており、必要とされているかを中心に講義内容を組立てている。表面的に知っていると思っていた国際的事件が、掘り下げると、更に知っておくべき事件であったことを受講生に理解してもらおう。メディアや本で得た知識ではなく、現場で直接得た知識を受講生に伝えられる内容である。